

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 2 部門第 4 区分

【発行日】平成 21 年 7 月 30 日 (2009.7.30)

【公表番号】特表 2009-500193 (P2009-500193A)

【公表日】平成 21 年 1 月 8 日 (2009.1.8)

【年通号数】公開・登録公報 2009-001

【出願番号】特願 2008-519350 (P2008-519350)

【国際特許分類】

B 4 1 M 5/00 (2006.01)

B 4 1 M 5/50 (2006.01)

B 4 1 M 5/52 (2006.01)

B 4 1 J 2/01 (2006.01)

C 0 9 D 11/00 (2006.01)

【 F I 】

B 4 1 M 5/00 A

B 4 1 M 5/00 B

B 4 1 M 5/00 E

B 4 1 J 3/04 1 0 1 Y

C 0 9 D 11/00

【手続補正書】

【提出日】平成 21 年 6 月 15 日 (2009.6.15)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

a) デジタルデータ信号に応答するインクジェットプリンターを設置すること；

b) 支持体及びその表面上に多孔のインク液受容層と多孔の上層可融性層とを有し、当該多孔のインク液受容層は当該多孔の上層可融性層に対して隣接してその下層に存在し、そして各層はメジアン孔径に特徴を有し、当該多孔の上層可融性層のメジアン孔径が当該下層にある層のメジアン孔径よりも大きいことを特徴とする可融性インクジェット記録要素をプリンターに装填すること；

c) 顔料系インク中に平均顔料粒度の顔料着色剤粒子を含むことに特徴を有する少なくとも一種のインクジェット顔料系インク組成物をプリンターに装填すること；

d) デジタルデータ信号に応答して、当該インク組成物を用いて可融性のインクジェット記録要素上に印刷すること；

e) 当該印刷された要素を溶融させて、溶融した上層を得ること、

ここで、当該多孔の上層可融性層及びその下層のメジアン孔径と顔料着色剤粒子の平均顔料粒度とが相俟って、当該インク組成物が記録要素に塗付された後には、当該多孔の上層可融性層のメジアン孔径が十分に大きく、そして当該下層の平均粒度が十分小さいため、その印刷画像では、当該顔料着色剤粒子が溶融上層の厚さの上方半分に比して下方半分に濃縮されて、実質的に当該下層への侵入が拒否されていることは、当該記録要素上の均一な試験領域を前記顔料系インクで塗付して光学濃度 1.0 ~ 2.5 とした後にその印刷要素を溶融することによって測定でき、その結果として、顔料系インクの 50% を越える顔料着色剤粒子が、溶融した上層の下方半分に保持されていることは、印刷溶融された記録要素の試験領域の断面に係る光学微小濃度計により測定されている、

を含んでなる、インクジェット記録要素上へのカラー画像のインクジェット印刷方法。

【請求項 2】

前記多孔の上層可融性層のメジアン孔径が、下層に比して、当該多孔の上層可融性層内で顔料着色剤粒子の自由流動が可能となるように十分に大きく、かつ下層のメジアン孔径が、均一な試験領域に印刷することによって測定して、20%未満の顔料着色剤粒子が当該試験領域における前記下層に存在するように十分小さい、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 3】

前記平均顔料粒度が上層可融性層のメジアン孔径の80%より小さいが、隣接する下層のインク液受容層のメジアン孔径の80%より大きい、請求項 1 に記載の方法。